

地 域 経 済 動 向

平成 17 年 2 月 25 日



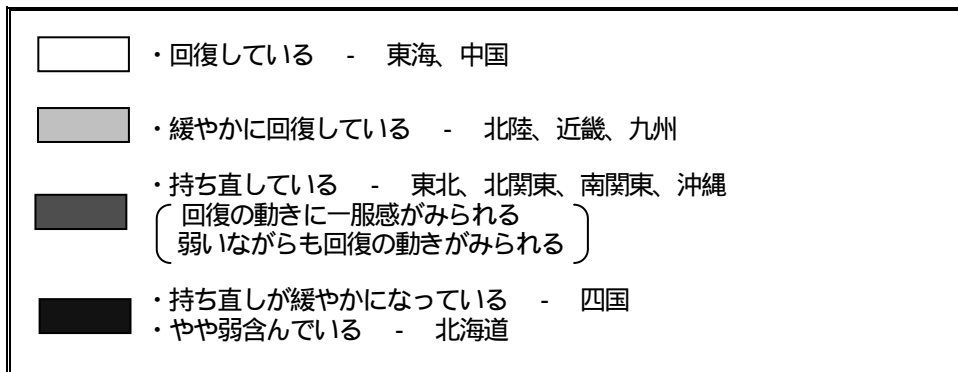
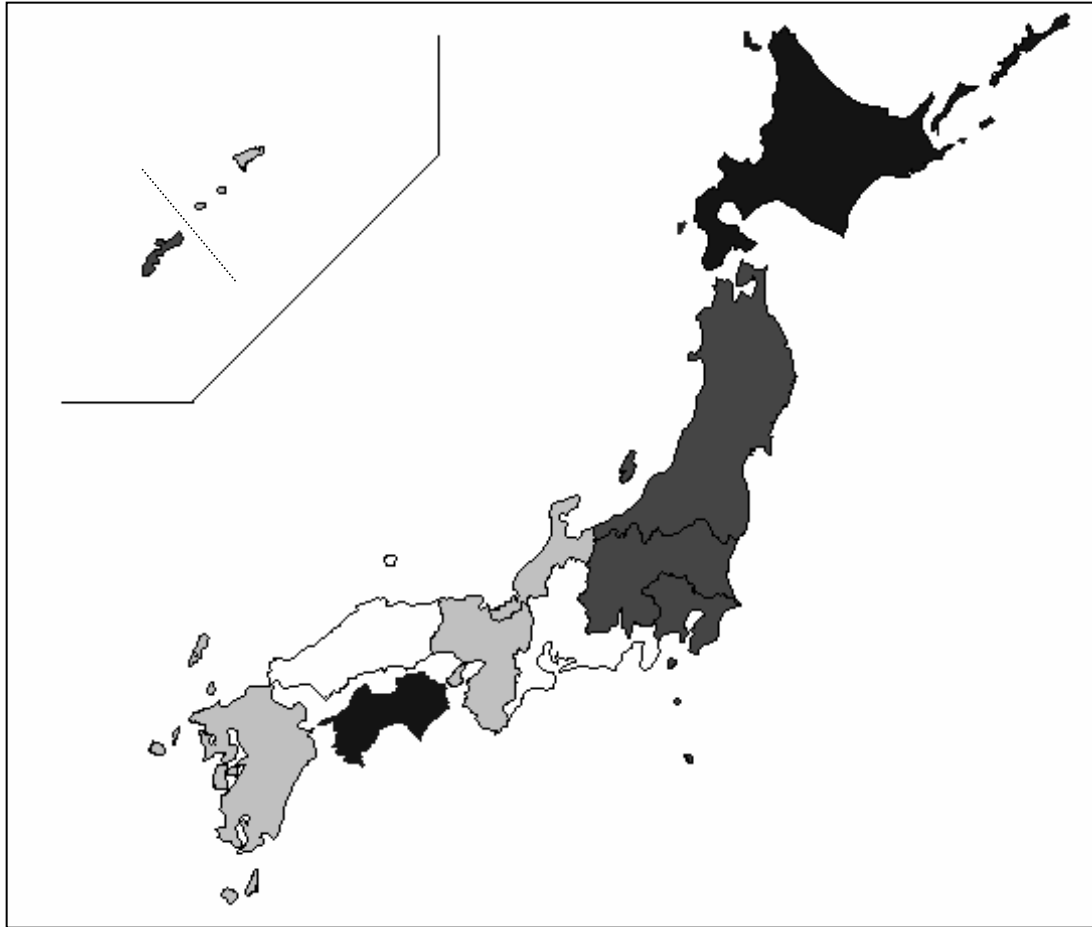
内閣府政策統括官室
(経済財政分析担当)

目 次

- 1 概況
- 2 地域別景況インデックス
- 3 トピック
- 4 地域別の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 東海
 - (6) 北陸
 - (7) 近畿
 - (8) 中国
 - (9) 四国
 - (10) 九州
 - (11) 沖縄
- 5 主要指標
- 6 参考資料

1 概況

(1) 各地域の景況判断



| 各地域の景況判断 | 北海道 | 東北 | 北関東 | 南関東 | 東海 | 北陸 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 | 沖縄 |
|---|-----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 力強く回復している | | | | | | | | | | | |
| 回復している | | | | | | | | | | | |
| 緩やかに回復している | | | | | | | | | | | |
| 持ち直している (回復の動きに一服感がみられる 弱いながらも回復の動きがみられる) | | | | | | | | | | | |
| 持ち直しが緩やかになっている | | | | | | | | | | | |
| やや弱含んでいる | | | | | | | | | | | |

(備考) は、今回調査の判断。 は、前回調査の判断。

今回調査（平成17年2月）の前回調査（平成16年11月）との比較

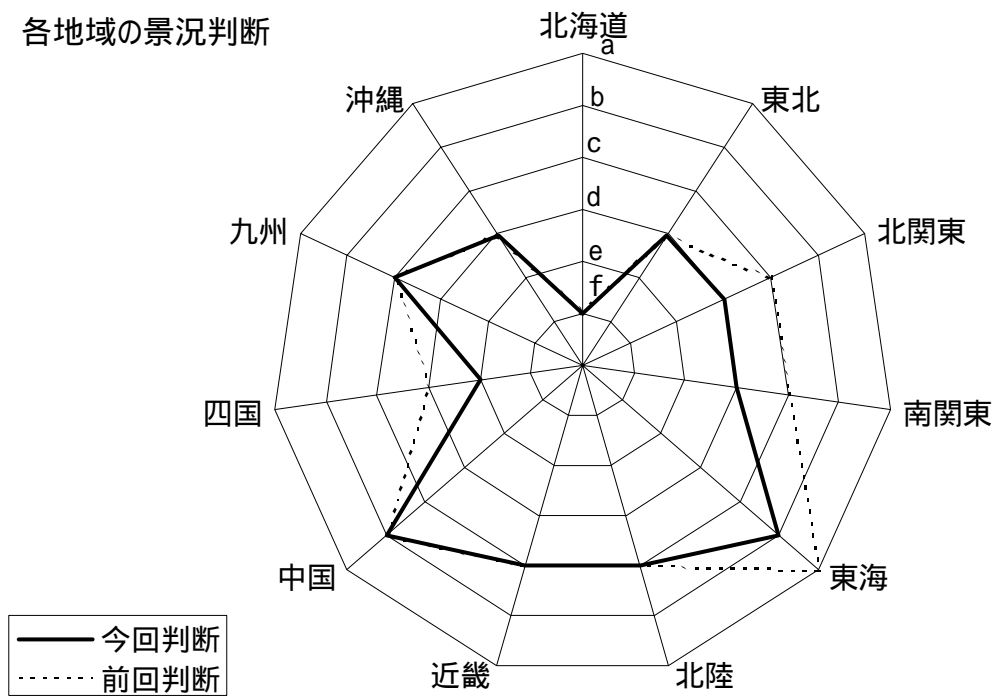
上方修正・・・なし

下方修正・・・4地域（北関東、南関東、東海、四国）

各地域の景況判断は、北関東、東海では鉱工業生産などを理由として、南関東では鉱工業生産、個人消費などを理由として、四国では鉱工業生産、雇用情勢などを理由として、それぞれ下方修正となった。

その他の7地域（北海道、東北、北陸、近畿、中国、九州、沖縄）については前回調査と同じである。

各地域の景況判断



- a: 力強く回復している
- b: 回復している
- c: 緩やかに回復している
- d: 持ち直している

（回復の動きに一服感がみられる
弱いながらも回復の動きがみられる）

- e: 持ち直しが緩やかになっている
- f: やや弱含んでいる

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

東海 中国では、景気は回復している。

| | 前回(平成16年11月) | 今回(平成17年2月) |
|-------|--------------|-------------|
| 東海 | 力強く回復している | 回復している |
| 鉱工業生産 | 堅調に推移 | このところ緩やかに減少 |
| 個人消費 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 着実に改善 | |

| | 前回 | 今回 |
|-------|------------------|--------|
| 中国 | 回復している | 回復している |
| 鉱工業生産 | 一時的な要因もありおおむね横ばい | 増加 |
| 個人消費 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 基調として改善 | 改善 |

北陸 近畿 九州では、景気は緩やかに回復している。

| | 前回 | 今回 |
|-------|-------------|------------|
| 北陸 | 緩やかに回復している | 緩やかに回復している |
| 鉱工業生産 | おおむね横ばい | |
| 個人消費 | 緩やかに持ち直している | おおむね横ばい |
| 雇用情勢 | 改善 | |

| | 前回 | 今回 |
|-------|-----------------------|------------|
| 近畿 | 緩やかに回復している | 緩やかに回復している |
| 鉱工業生産 | おおむね横ばい | |
| 個人消費 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、改善が続いている | |

| | 前回 | 今回 |
|-------|-----------------------------|-------------------------|
| 九州 | 緩やかに回復している | 緩やかに回復している |
| 鉱工業生産 | 緩やかに増加 | |
| 個人消費 | やや弱含んでいる | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い |

東北では、景気は持ち直している。

| | 前回 | 今回 |
|-------|----------------------------|---------|
| 東北 | 持ち直している | 持ち直している |
| 鉱工業生産 | 増加 | このところ減少 |
| 個人消費 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている | |

北関東、南関東では、景気は回復の動きに一服感がみられる。

| | 前回（平成16年11月） | 今回（平成17年2月） |
|-------|--------------|----------------|
| 北関東 | 緩やかに回復している | 回復の動きに一服感がみられる |
| 鉱工業生産 | 緩やかに増加 | このところ緩やかに減少 |
| 個人消費 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 改善 | |

| | 前回 | 今回 |
|-------|-------------|----------------|
| 南関東 | 緩やかに回復している | 回復の動きに一服感がみられる |
| 鉱工業生産 | 緩やかに増加 | このところ緩やかに減少 |
| 個人消費 | 緩やかに持ち直している | おおむね横ばい |
| 雇用情勢 | 改善 | |

沖縄では、景気は弱いながらも回復の動きがみられる。

| | 前回 | 今回 |
|------|----------------------------|------------------|
| 沖縄 | 回復の動きに一服感がみられる | 弱いながらも回復の動きがみられる |
| 観光 | おおむね横ばい | |
| 個人消費 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている | |

四国では、景気は持ち直しが緩やかになっている。

| | 前回 | 今回 |
|-------|----------------------------|---------------------------------|
| 四国 | 持ち直している | 持ち直しが緩やかになっている |
| 鉱工業生産 | 緩やかに増加 | おおむね横ばい |
| 個人消費 | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている | 依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている |

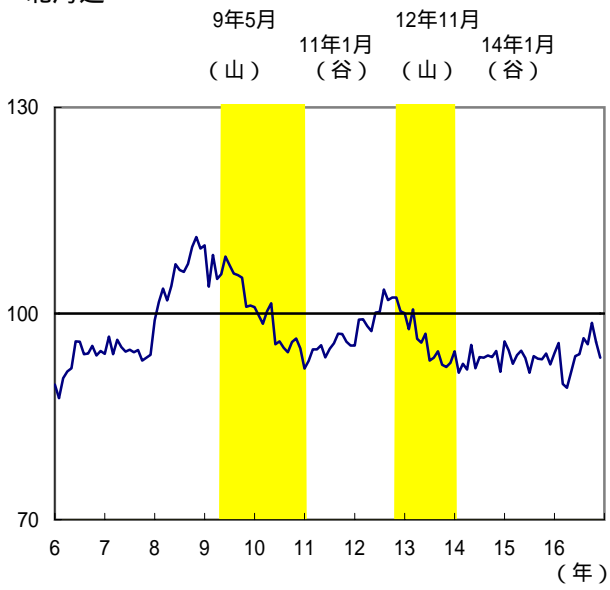
北海道では、景気はやや弱含んでいる。

| | 前回 | 今回 |
|-------|----------|---------------------------|
| 北海道 | やや弱含んでいる | やや弱含んでいる |
| 鉱工業生産 | おおむね横ばい | 緩やかに増加 |
| 個人消費 | おおむね横ばい | やや弱含んでいる |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる |

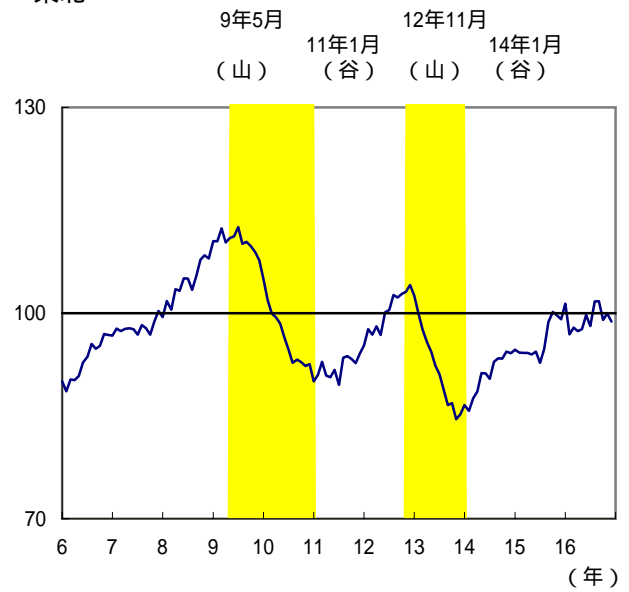
（注）今回調査欄の空欄は変更がなかったことを示す。
 は上方修正、 は変更なし、 は下方修正を表す。

2 地域別景況インデックス

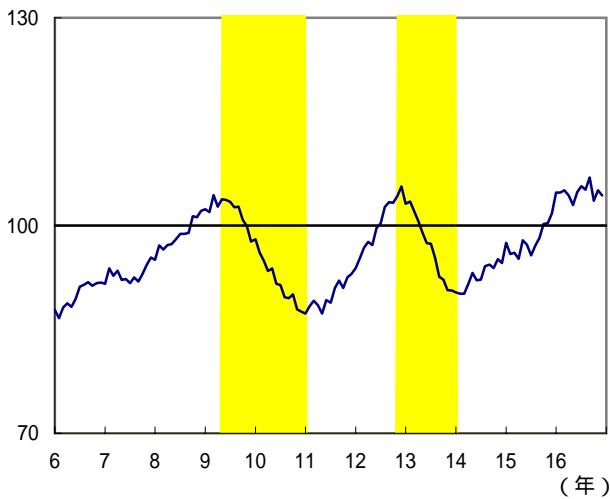
北海道



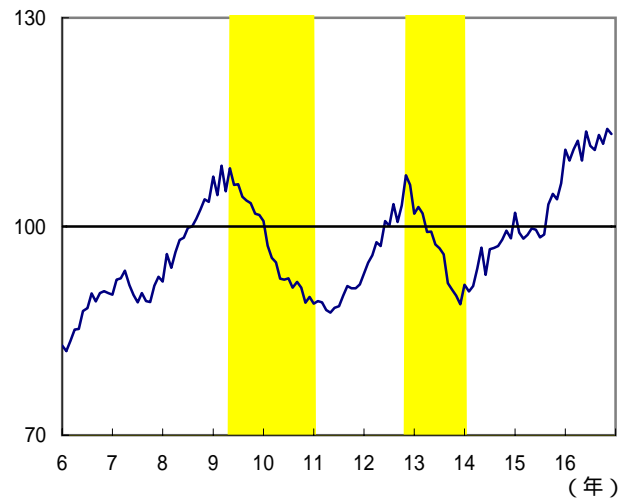
東北



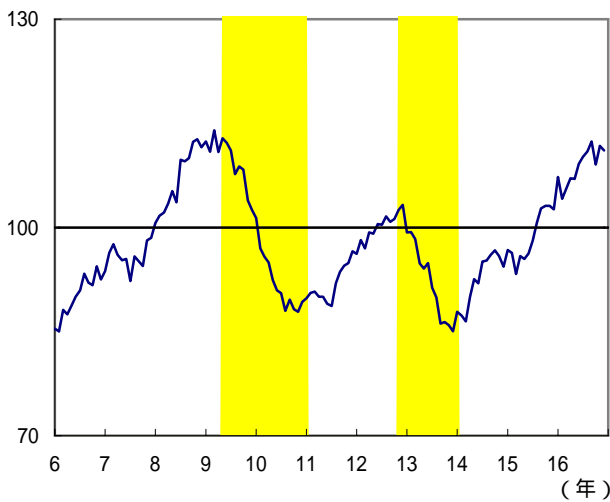
関東



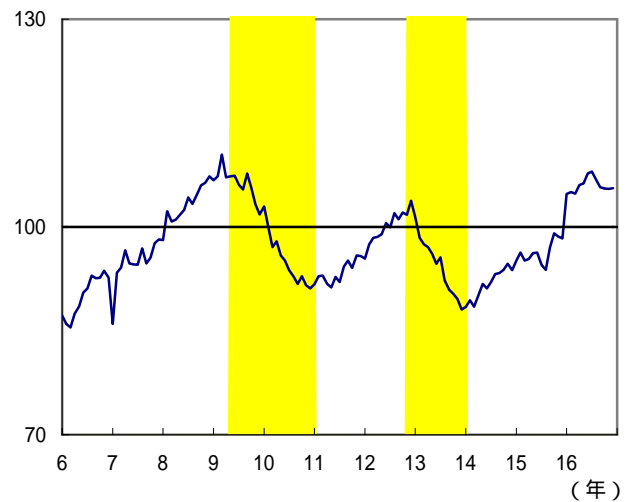
東海



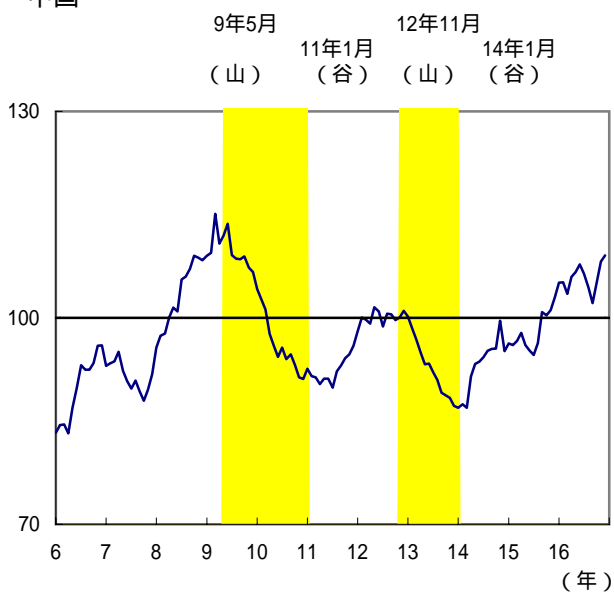
北陸



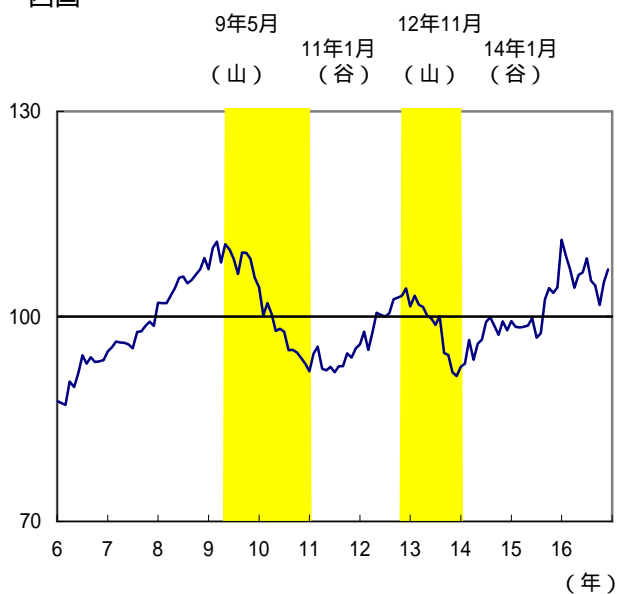
近畿



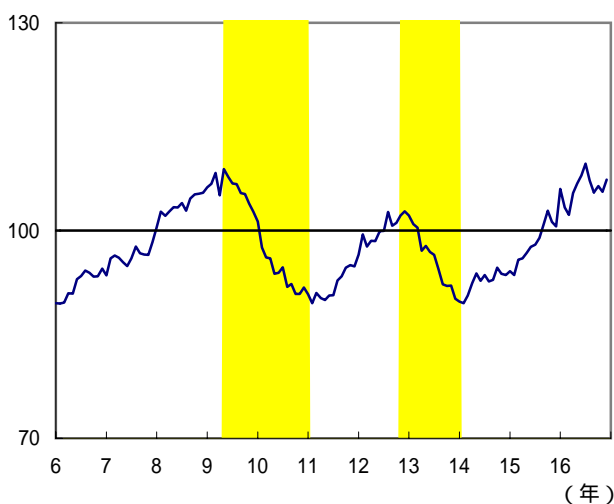
中国



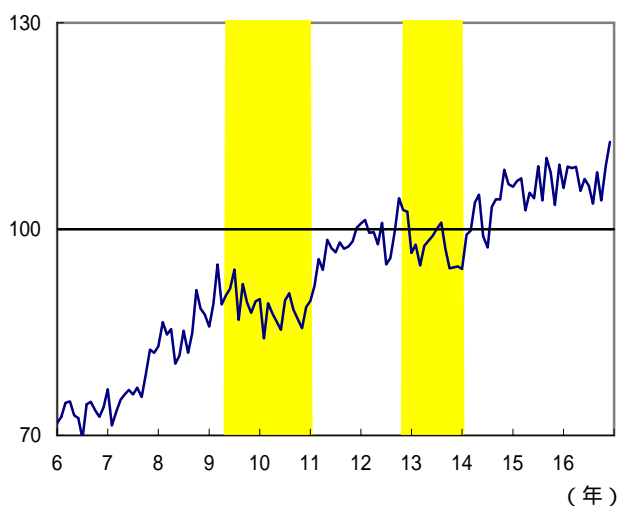
四国



九州



沖縄



(備考) 1. 以下の6系列の経済指標を一定の方法で合成して作成。詳細については、「昭和63年地域経済レポート」及び「地域の経済2004」を参照。

鉱工業生産指数
大口電力使用量
建築着工総床面積
大型小売店販売額
(消費者物価指数で実質化)
有効求人数(パートを含む)
所定外労働時間

2. なお、沖縄のインデックスは上記の6系列に観光入域客数を加えた7系列を合成して作成。
3. 平成12年を100として指数化している。
4. 平成16年10月から12月は速報値。
5. シャドー部は景気後退期。

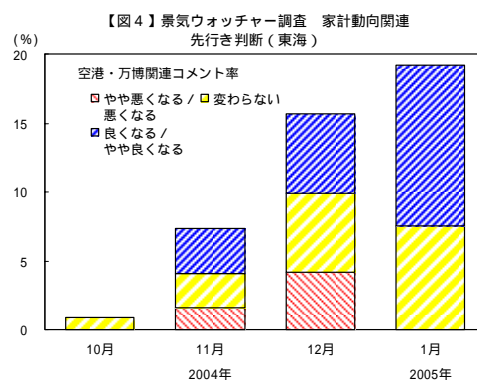
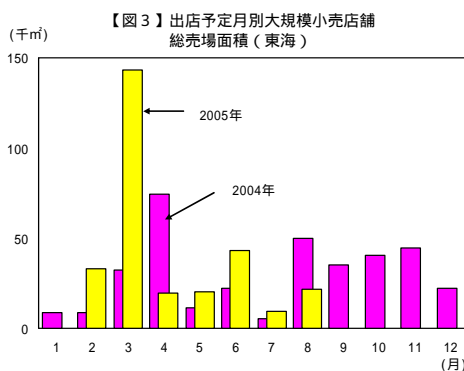
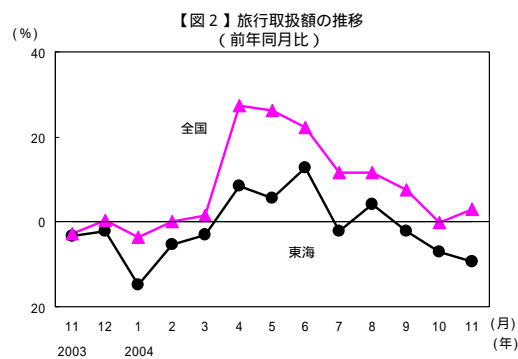
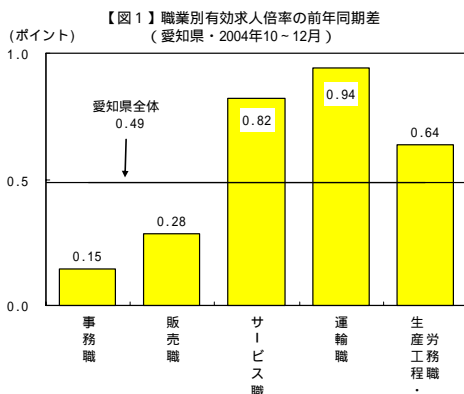
3 トピック

<トピック1> 愛知万博の開幕と中部国際空港の開港に期待が高まる東海地域¹

2月17日に中部国際空港が開港し、3月25日には2005年日本国際博覧会（愛知万博）が開幕する。愛知県の調査によると、これら2大プロジェクトにより、約2兆2000億円を超える経済効果と22,000人を超える雇用効果が見込まれている。

2大プロジェクトの効果もあって東海地域の雇用情勢は改善を続けており、職業別の有効求人倍率をみると、愛知県においては製造業向けである「生産工程労務職」の有効求人倍率の伸びを、「サービス職」や「輸送職」の有効求人倍率の伸びが上回っている（図1）。その他にも、中部国際空港の開港に伴う旅行意欲の高まりにより、全国を下回って推移している旅行取扱額（図2）の改善が期待される。また、3月には、愛知万博の開幕に加えて多くの各種大規模小売店舗の新設が予定されており（図3）相乗効果による消費の拡大が期待される。

東海地域における景気ウォッチャー調査の家計動向関連においても、先行き判断として2大プロジェクトについてコメントする景気ウォッチャーは増加を続けている。特に、2004年12月調査以降は、コメント回答者の15%以上が2大プロジェクトについてコメントしており、2大プロジェクトへの期待が認められる（図4）。一方で、「愛知県では中部国際空港の開港や愛知万博の開催で活気があるが、隣県の岐阜県では盛り上がっていない（旅行代理店）」というコメントもみられており、2大プロジェクトの効果が広範囲にまで波及するかについては、注視する必要がある。



¹ 愛知県の調査は「二大プロジェクトの愛知県内における経済波及効果の中間試算結果」(平成15年12月25日発表)

図1は愛知労働局「最近の労働市場」「求人・求職バランスシート」により作成。原数値。

図2は国土交通省「主要旅行業者50社旅行取扱額」、中部運輸局「中部地区における最近の運輸の動き」により作成。11月は速報値。なお、東海は旅行業主要6社の中部運輸局管内(管内3県に静岡、福井を加えた5県)の旅行取扱額の合計。

図3は経済産業省「大店立地法の届出状況について」により作成。なお、東海は愛知、岐阜、三重の3県。

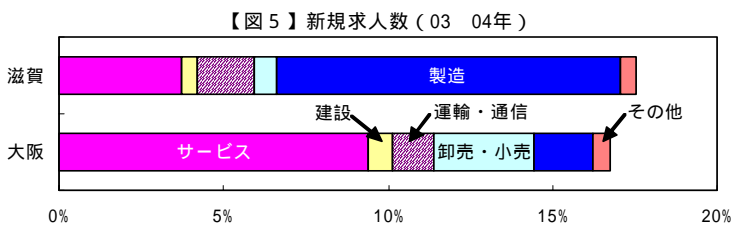
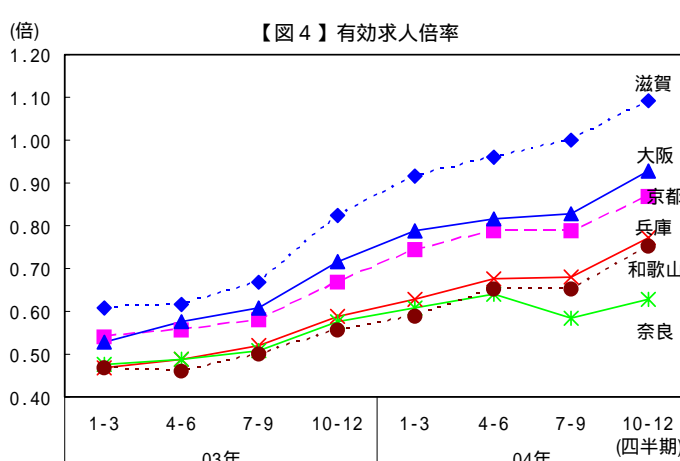
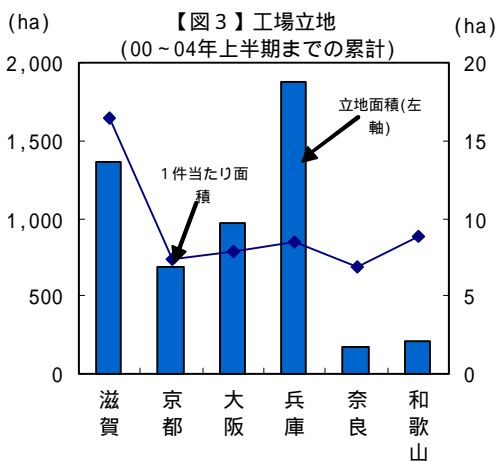
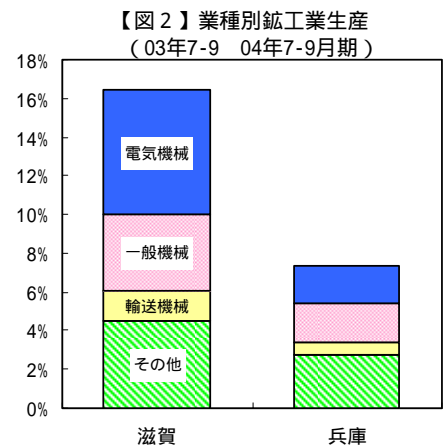
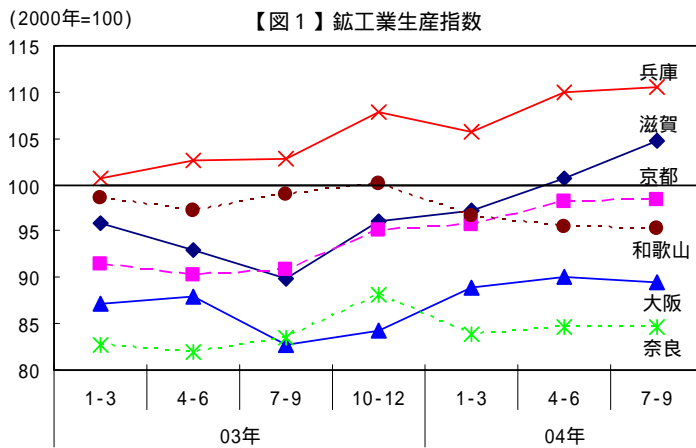
図4は内閣府「景気ウォッチャー調査」により作成。空港・万博関連コメント率は、コメント回答者のうち、中部国際空港または愛知万博に関するコメントを回答したウォッチャーの割合。なお、東海は愛知県、岐阜県、三重県、静岡県県の4県。

<トピック2> 近畿の地域内格差について²

近畿各府県の鋳工業生産指数を見ると、兵庫は高水準で推移し、滋賀がここ1年で大きく回復しており、この2県が100を超える水準となっている(図1)。一方他の府県はほぼ横ばいの動きとなっており、奈良や大阪は水準も低くなっている。増加の著しい滋賀と兵庫について業種別にみると、両県とも機械工業の寄与が大きいことが分かる(図2)。

ここ5年間の累計の工場立地をみると、兵庫、滋賀の2県が1,000haを超えており、生産の好調を裏付ける結果となっている。特に滋賀では1件当たりの立地面積が大きく、他府県よりも比較的大規模な工場が立地していることが分かる(図3)。一方、生産が伸び悩んでいる奈良や和歌山では立地面積も小さくなっている。

有効求人倍率を見ると、生産が好調な滋賀の上昇が目立つとともに、大阪も大きく上昇している(図4)。この2府県について業種別の新規求人をみると、滋賀は製造業が大きく伸びているが、大阪はサービス業の伸びが大きくなっている(図5)。ヒアリングによると、滋賀は製造業の中でもデジタル関連や猛暑によるエアコンや冷蔵庫が好調だった電気機械が大きく伸びており、大阪はウェイトの高いサービス業における派遣・請負や卸売・小売の伸びが大きいとのことである。



² 図1, 2は各県「鋳工業生産動向」より作成。図1は季節調整値。図3は近畿経済産業局「近畿地区工場立地動向調査」より作成。図4は厚生労働省「一般職業紹介状況」より作成。季節調整値。図5は滋賀及び大阪労働局「産業別新規求人状況」より作成。